

## (52) 地域創生の時代

地域創生という言葉が、毎日のように耳にするようになった。急激な高齢化と人口減少で世界から注目される日本で、新たな社会への変革が求められ、それが静かに進んでいるようだ。

テレビや新聞では、田舎暮らし、地方への移住、全国各地の料理や農林水産物の紹介、観光スポット、海外からの旅行者の動向などが、毎日のように報道されている。地方での生活の不便や、都市圏における生活の質の低下などは、分かりきったことなのか、あまり話題にはならない。都市から地方への生活の転換は、雇用や労働の在り方の転換でもある。移住を志す人は、田舎での生活の質を重視し、仕事は都会とは異なって、人生のすべてであるというわけではなく、貨幣賃金は下がっても、一部は自給も可能で、農業における兼業農家という名称のように、複数の仕事を主体的にこなす。

多様な地域資源を見出し、ビジネスに結びつける、人材が求められている。一方で、田舎暮らしでは、買い物や交通は大都会と異なって、効率的ではなく、また、共同体色の強い地域社会におけるコミュニケーションの構築は、必ずしも簡単ではない。

自然環境に接し、スローな時間を消費する生活スタイルを求める人が増え、行政、産業界、金融、大学などで連携して地域創生を進めれば、経済成長優先から、サステイナブル社会への移行を促すことにもなる。

以上